

## 第2回生駒市総合計画審議会（第三部会）会議録

開催日時 令和4年9月1日（木） 10:00～12:00

開催場所 生駒市役所 大会議室

出席者

（委員）高取部会長、大谷委員、浅間委員、藤尾委員、上山委員

（事務局）増田市長公室長、川島市長公室次長、牧井企画政策課主幹、  
片山企画政策課企画係長、桐谷企画政策課係員

（担当課）松田幼保こども園課長、角井子育て支援総合センター所長、清水生涯学習課長  
井川生涯学習課課長補佐、西野図書館長、錦図書館課課長、  
西スポーツ振興課長

議事内容

(1)各小分野の検証

(2)その他

【事務局】（開会宣告、配布資料確認）

以下、発言要旨

**No. 212 子ども・子育て支援**

【藤尾委員】 保育所が足りないといった課題に対して、民間保育園の誘致など、保育の受け皿を増やすことができている。地域や親族の協力が得られなくても、子育てできる時代になったと思う。一方で、子ども達は地域の人に怒られたりする経験がないまま大人になるので、長期的に見てどのような影響が出るのかと危惧している。10年以上経って結果が出てくることなので、行政としても1年間の支援がゴールではなく、長期的な目線で施策を進めてほしい。また、保護者のニーズは限りがなく、全てのニーズに対応することは難しいと思う。なんでも要望を言えば通るということではなく、精査することが大切。

【上山委員】 保護者のニーズに過度に対応すると、保育士や先生の負担も多くなる。

もちろん内容次第だが親がすべき役割があると思う。

【大谷委員】 保護者も権利を主張するだけでは不十分であり、行政が全ての要望に対応することはできない。幼児期は人格の基礎ができる大切な時期であり、保育所が全て対応してくれると思う人が増えることは問題である。しつけなどは家庭で対応すべきことがある。保育所はあくまで小さな社会を経験する場所。保護者も様々なことを学んで、子どもと一緒に成長することが大切。

SNSやインターネット等、現代は情報があふれているので、親は情報を取捨選択する力が必要である。自分自身で調べて、感じたことだけで判断するのではなく、地域の方や様々な人と情報交換し教えてもらう機会も必要。子どもが小さいころから多くの交流があると良い。

【浅間委員】 共働き世帯や核家族が増えており、若い世代ほど顕著である。社会の実態に合わせて保育所は増え、待機児童は減っている。今度は教育の目線も必要になると思う。

【幼保こども園課】 保育園の設置数は増加し、保育定員も約1,000人増えた。地域のつながりについては、各保育園が工夫しているが、あくまで保育園で過ごす時間内でのつながりである。日常生活で地域とつながりがあるかどうかは別の話である。

共働きやフルタイムで働く夫婦が増えているが、妻がパートタイムで働く家庭も多くある。働き方も多様化しているので、社会情勢に合わせた保育が必要であり、現在は通常保育と長時間保育から選択できる。今後も入所選考時の基準など、国の制度とも合わせながら検討する。

【大谷委員】 保育士に対する研修・人材育成はどうか。社会が急激に変わる中で、子育ての形態も変わっている。

【幼保こども園課】 県主催の研修が多い。生駒市では、社会福祉法人の保育会に公立園も参加し、定期的に情報共有や研修会を実施しており、年4回合同園長会を実施して情報共有を行っている。また、幼保こども園課の指導主事が各園を回り、保育状況の確認やアドバイスをを行っている。

【大谷委員】 保育時間内の研修は難しいので、スキルアップが必要であることを個々の先生や保育士に意識してもらうことが大切。

現在は有資格者を中心に採用していると思うが、資格はないが保育の補助等で力を発揮する人もいるので、資格の有無だけでなく就業希望者の人間性を見極めて採用をしていく事が大切。保育は子どもの人格形成に関わる大変な仕事なので、人材の確保が大切。

【高取部会長】 待機児童問題に関して、現状や今後の展望はどうか。保育園が増えることや少子化が進むことで、定員割れも考えられる。事業者の経営面も課題になる。

【幼保こども園課】 現状、実質待機児童は令和4年4月時点で10人であるが、カウント方法の変更があったことが影響している。従来は2園希望し、入所できない児童を実質待機児童としてカウントしていたが、現在は6園希望し入所できない児童をカウントしている。例えば、送迎の関係等で3園しか希望せず入所できなかった場合は、実質待機児童には入らない。このような隠れ待機児童は100人程度いると思われる。生駒市は南北に長く、交通の利便性も地域ごとに異なり、保育ニーズも地域差が大きい。保育コンシェルジュを配置し、ミスマッチを解消するよう情報提供を実施しているが、待機児童の問題にゴールが見えている段階ではない。

【高取部会長】 保育所の定員に空きが出た場合、専業主婦の児童も利用できるよう取り組んでいるところがあると聞いたことがあるが、市の事業なのか。

【幼保こども園課】 市が積極的に実施していることではない。例えば、中保育園は駅前の立地から保育ニーズが高く、リズム室を保育室に転換し定員を増やして対応している。民間事業所が定員割れするようであれば、公立園の定員を調整し平準化を図る。それでもなお空きがあれば、法人の方針によるが、独自の取組をする可能性が考えられる。

【高取部会長】 子育て支援の令和3年度の取組のアピールポイントは何か。

【子育て支援総合センター】 令和3年度は市独自の感染拡大緊急警報が発表されたが、みっきランド等の市直営拠点は閉鎖せずに続けることができた。保護者からも喜びの声をいただいている。

【高取部会長】 ボランティア養成講座修了後、講座受講者は地域でどのように関わることか。

【子育て支援総合センター】 主に子育て支援総合センターや健康課等の講座や健診等で託児をしてい

ただいている。みっきランドは「かるがもの会」がスタッフとして運営しており、講座修了者が会に入ることもある。受講者の希望を聞いて、マッチングしている。他課の事業での託児やファミリーサポート事業との連携なども進めていきたい。

親向けの講座として、赤ちゃんとの接し方講座、どならない子育て講座などを実施している。夫婦ともに参加する子育て講座もあり、市内保育士が講師を務めることもある。講座は申込制であり、広報紙の他にみっきランド来訪者や新生児訪問などで周知している。

【高取部会長】 パパママ教室などもあるが、親が講座を選択するのか。

【子育て支援総合センター】 受講する講座は親が選択する。妊娠中は健康課の各種講座があり、出産後は子育て支援センターがフォローしている。イベントカレンダーを配付しており、情報を周知している。

## No. 222 青少年

【藤尾委員】 子ども会と一緒に実施するイベントを計画するが、参加者が少ない。子ども会は、無くなったら仕方ないのか、何とか立て直していくのか、子ども会という存在をどのように考えられているか知りたい。子ども会という形式ではない新しい子どもの集まりなども検討していく必要がある。将来的に子ども会という組織や形式が必要になるのか疑問に思う。若い世代の集まりに補助する等、社会情勢に合わせた対応が必要。

イベントも子ども会経由で案内するのではなく、地域の子ども全員にすればよい。補助金等の兼ね合いがあるかもしれないが、子ども会への加入有無で情報が届くかどうか、参加できるかどうかが変わることは良くない。

【生涯学習課】 子ども会育成連絡協議会に登録している団体は8団体程度。登録していない団体は把握できていない。登録団体でも休会しているところがある。多忙な親が自分たちで運営する事が大変なのであれば、子ども会という形式ではなく子どもの居場所作りでも良いと思っている

【藤尾委員】 地域ごとの小さな取組など、より多くの人や子どもが参加できる仕組みを検討してほしい。参加することで子どもも親も育つ。

【浅間委員】 育友会や自治会、民生委員など担い手がない。複合型コミュニティ事

業は、小さな単位の取組を応援する仕組みである。地域コミュニティをどう連動して変えていくかということであるが、自治会役員等は、「役が当たってしまった」「役員の任期中は何もしたくない」と考える人が多く、このままだと衰退していく。高齢者だけでは限界があるので、若い世代につないでいきたい。

【上山委員】 役員は対応できるが、会長になると会議等もあり負担が増える。地域のイベント等で前に出る機会も多く敬遠されていると思う。

【藤尾委員】 自治会長になるうえで挨拶が負担になるのであれば、無くしてしまえばよい。会長は挨拶するもの、といった考え方自体が古く、柔軟に変えていけば良いと思う。会長を複数人で担うなど、方法はさまざまあるので自分たちで考えて変えればよい。

【大谷委員】 ピラミッド型の組織では、会長の負担が大きい。特に働いている世代の方は、「仕事もしているのにどうやって時間を確保するのか」と思っており、自治会活動や役割が邪魔なものという印象を持っている人が多い。学校の役員でも、複数人で負担を分散させることで担い手が増えた例がある。組織の在り方や役員の役割などを変えていく必要がある。

子ども会という組織がなくても、地域ぐるみで子どもに関わることはできるが、子ども会という組織があれば、行政に意見を出しやすくなるというメリットはある。

【藤尾委員】 組織が消滅した後では遅い。今が変えるタイミングである。役員等の役割も最初は嫌かもしれないが、やってみると仲間ができるなど楽しいこともある。

【高取部会長】 子ども会が消滅しつつあることが分かっているのであれば、仕掛けは行政がすべきだと思う。子ども会という組織にこだわらないことも含めて、対応が必要ではないか。私が住む地域でも、子ども会入会募集のチラシが張っていた。チラシには「役員制度廃止」「祭りの負担軽減」等の記載があり、子ども会を運営している人は継続するため工夫している。

【生涯学習課】 子ども会に参加していない親も、同じ地域でつながりを求めていることが考えられるので、子ども会という組織にこだわらない柔軟な体制を検討していく必要がある。また、現状、子ども会育成連絡協議会に加入されて

いる団体への支援はあるが、それ以外の団体への支援も考えていく必要がある。

【高取部会長】 消滅してしまうと、携わっていた人の失敗体験になってしまう。子ども会という形式の存続が難しい場合も、終わり方は重要だと思う。

【大谷委員】 自立支援について、若い人が50代の相談員に相談することは、相談員の資質に関わらず心理的なハードルが高いと思う。親世代に年齢が近いと話しにくいのではないかと思ってしまう。世代が近い人が同席すると雑談も弾み、心を開きやすい。若い人が関わる時間があっても良いと思う。

【生涯学習課】 居場所づくりとして、週に一回程度当事者同士の交流などを実施している。以前は元当事者に関わっていたが、仕事の兼ね合いで難しくなってしまった。

親から相談されることも多い。家庭内の状況が要因になっていることも多いので、親の意識改善も含めた保護者支援や相談対応を行っている。

【高取部会長】 相談者の内訳はどうなっているか。

【生涯学習課】 20～30代からの相談が多いが、コロナ禍を経て不登校に関する相談が増えている。

【高取部会長】 40代などの事例が増えていると報道では目にするが、そういった方も相談できるのか。

【生涯学習課】 基本的には40代以下が対象だが、40代以上でも相談に応じている。

#### No. 331 生涯学習・スポーツ

【大谷委員】 数値評価が難しいものが多く、効果が出ていても認められないものがあると思う。何とか成果を測る方法が無いか。また、イベントはその場で完結するものが多いので、参加者同士のつながりが生まれるなど、継続につながる仕組みが理想。協働に向けて市民が参加者で終わらない仕組みが求められる。

【生涯学習課】 事業に参加されての気づきや活かし方など、当日のアンケート等で一定の成果を確認することはできるが、その後の行動変容まで追うことは難しい。今後、確認方法などは検討していく必要がある。

【高取部会長】 寿大学は卒業後、地域活動を継続するスキームになっているのでは。

【生涯学習課】 卒業生でOB会を結成し自主的に活動している。また、I KOMAサマーセミナーでは、講師を務めた参加者が実行委員になり運営している。

【高取部会長】 指標はコロナの影響が大きく判断が難しい。I KOMAサマーセミナーの内容等、動画で配信していると思うが評価はどうしているか。対面開催であればアンケートで確認できるが、オンラインは難しい。再生回数は単純に見られた回数であるので、それ以外で評価軸はあるか。

【生涯学習課】 動画配信は一方向の情報伝達が中心になるので交流が難しいため、今年のI KOMAサマーセミナーは対面で開催した。昨年はコロナ禍で何とか続けられるよう動画配信にしたが、講師も生徒も対面開催の方が満足度が高いので本来は対面開催が良い。ハイブリッド開催も考えられるが、講師の負担も大きくなる。

【大谷委員】 図書館は新しい取組が多い。サポーターの人材発掘が大切であるが、どこが中心になって募集しているのか。校区単位で実施できれば保護者の参加も考えられる。

【図書館】 現在は、子育てや障がい者のサポートボランティア等、図書館で内容を検討し研修等を実施している。ボランティアは市域全体を対象に養成しており、講座受講後、各地で活動していただいている。

鹿ノ台図書室については、鹿ノ台区域が市民活動が盛んなこともあり、運営にも関わっている珍しい例である。イベントの共催や、配架ボランティアなど地域と協力して実施している。

【高取部会長】 読み聞かせボランティアの年齢層はどうか。

【図書館】 50代以上がメインであり年齢層は高い。この点は課題と思っており、子ども読書会議等、幼稚園や小学校でボランティアしている人も交えて連携している。若いお母さんに声掛けを続けたい。

【高取部会長】 コロナ禍を経て本を読む人は増えたか。また、読書離れが進んでいるとの記載があるが、現状をどう捉えているか。

【図書館】 貸出冊数は2割程度減少したが、回復傾向である。インターネットなど、本の購入方法も多様化しているので、本を読む人数は変わらない印象である。

読書離れについては、読む人と読まない人と二極化していると感じてい

る。学校の図書館司書に話を聞いたところ、貸出冊数は増えたが、一方で不読率が高く二極化が課題と言っていた。昔は何か調べるときは図書館を使っていたが、今はインターネットが主流になっており、社会も変わっている。

【大谷委員】 学習漫画も様々あるが、学習漫画との線引きは何か。漫画なら読む子供も多く、漫画から得るものもあると思う。

【図書館】 学習漫画は教科学習を補助するものと捉えている。漫画は絵が助ける部分が多く、子どもには活字から想像する力が大切だと考えている。また、漫画は種類が多く、費用と場所の点から配架は難しい。多くの要望が寄せられると思うが全てには応えられない。

【藤尾委員】 スポーツについて、最近はオンラインを活用して、一人でも技術指導を受けることができる。一方で、みんなと一緒に苦楽を共にする経験も大切だと思う。また、一流アスリートの話などは、子どもたちが多くの事を感じられるので、ぜひ続けてほしい。

【上山委員】 仲間と苦楽を共にすることはスポーツの醍醐味であり、一生の仲間ができると思う。子どもにもスポーツの良さや楽しさを伝えたいが、スポーツの楽しさを伝える難しさを感じている。

【藤尾委員】 部活動の地域移行が始まるが、担任と子どものつながりが薄くなるのではと危惧している。

【スポーツ振興課】 部活動の地域移行について、しばらくは学校の先生の力は借りて進めていく予定である。全ての部活を地域移行する場合、市内で200人程度の指導者が必要になるため、全てを一度に移行できるものではない。部活動の良いところは継承したいと考えている。

【高取部会長】 競技目的のスポーツ以外では、健康づくりが目的になると思う。健康課など福祉部門との連携はあるか。

【スポーツ振興課】 健康課と生活習慣病予防に関して、障がい福祉課とパラスポーツに関して連携している。50年続いた市民体育祭を終了し、いこまスポーツの日を実施し、多くの人がスポーツをするきっかけを作った。

【大谷委員】 アプリのゲームなどがきっかけで、高齢者の歩数が増えることもある。健康につながるアプリなどは検討しているか。



【スポーツ振興課】 昨年10月に民間企業と連携してオクトーバーランを実施した。アプリを開発する場合、かなりの費用が必要になる。古地図を使ったウォーキングイベントなども検討したが費用が高く断念した。

【高取部会長】 健康づくりの分野ともリンクするが、体の健康だけでなく心の健康も大切。ウォーキングには抑うつを和らげる効果が分かっている。心の健康ともリンクし、メンタルに不調をきたしている人にも歩く大切さを伝えることができれば面白いと思う。

【藤尾委員】 健康課でウォーキングイベントを行っているが、参加者は高齢者が大半である。若い人は時間や日程の調整が難しい。若い人が参加するには工夫が必要。体育館の開放時間なども、終業後に利用できるように深夜も開放する等検討が必要。

#### No. 332 歴史・文化振興

【大谷委員】 子どもたちが講座等でインプットした内容をアウトプットできる機会があればよい。

【生涯学習課】 学校教育の分野では実施しているかもしれないが、把握できていない。

【大谷委員】 教育委員会や学校とタイアップしたら実施できる。市役所内で連携することで、イベントとしてできるのではないかと思う。例えば、子どもが学んだ内容を発表する場合、子どもの学習だけでなく、親が子どもの成長を実感する機会にもなる。

【高取部会長】 令和3年度のアピールポイントはなにか。

【生涯学習課】 令和3年度は事業を中止するのではなく、コロナ対策を講じた上で実施することができた。

【高取部会長】 ふるさとミュージアムで行っている勾玉作り体験はどこの発案か。

【生涯学習課】 勾玉づくり体験は指定管理者の提案による事業である。また、市民との連携として、ふるさとミュージアム独自でボランティアを募集しており、イベントと一緒に実施していただいている。夏休みは来館者が増えるのでボランティアも活躍している。

【藤尾委員】 ボランティアがスタッフとしてお手伝いするだけでなく、ミュージアムを盛り上げる方向で協働できれば理想である。

【高取部会長】 家族で勾玉作りに参加した。子どももとても喜んでいて。体験自体は楽しいが、「勾玉とはなにか」といった説明がなかった。文化振興という目線から考えると、興味を引く説明があると良い。また、イベントを検討するうえで生駒の歴史とリンクするとなお良い。ふるさとミュージアムは生駒町時代の役場であり、登録有形文化財になっていることも含めて歴史を伝えられると良い。

パネル展示などもあるが、大人向けの難しい内容である。昔の衣装で写真が撮れるフォトスポットなど、その場にとどまる仕掛けが欲しい。

【事務局】 （庶務連絡、閉会宣告）

— 了 —